

資料 5

佐々木家住宅（樗谿グランドアパート）

所在地	鳥取市上町 93-1
建築年	昭和 5 年・昭和 21 年に増築
施主	佐々木善政
設計・施工	檜山義治（大工棟梁）
構造	木造 2 階建・瓦葺
来歴	<p>智頭に本拠をもつ佐々木家により、当初は医院として計画・建築された。らせん階段は他の建造物（明治 44 年頃建築の病院）より転用されたもので、建築年代は建造物より古い。医院として使用されなかったため住宅に転用されていたが、昭和 14 年頃から 20 年にかけては国に、昭和 21 年には占領軍によって接收された。</p> <p>進駐軍接收時に、ノーラン少佐のテキサス自邸に似た形の部分が増築され、1 階はダンスホール、2 階は宿舎として使用された。当初あった日本庭園はこの時に破却された。</p> <p>その後、ホテル・アパートなどとして使用された。これらの経緯により、敷地内には当時の使用人の宿舎等粗略な建物が増築されている。</p>
文化財的価値について	<p>① 鳥取市中心市街地のみならず東部地域を代表する擬洋風建築である。</p> <p>② 昭和初期に建築され、昭和 18 年の鳥取大震災・昭和 27 年の鳥取大震災以前に逢いながら現存している。中心市街地においては希少な建造物である。</p> <p>③ 建築時期である昭和 5 年は、薬研堀の埋設・下水整備や鳥取市中心市街地の様相が旧城下町から近代都市へ大きく転換しつつあった時代であるが、本建築はその状況を端的に示す貴重な資料である。</p> <p>④ 増築部分は、現存する遺構の少ない連合軍占領時代の貴重な資料である。</p> <p>⑤ 建築としての価値に加え、鳥取市の近代史を知るうえで必要な資料でもある。</p>
指定の緊急性について	<p>① この物件に居住し管理されていた前所有者が数年前に亡くなり、現所有者は遠隔地（大阪府）に居住されているため、以前より管理が困難となっている（現在、アトリエ使用されている方に日常管理をお願いしている）。</p> <p>② 所有者の保存の意思は明確であり、現在も維持修理を続けているが、費用面で単独での維持管理・活用には限界を感じている。</p> <p>③ 雨漏り等、建物としての劣化が進行していることから、現時点で市の文化財として指定し、修理費を補助するなどして、文化財としての保存を担保しておく必要がある。</p>